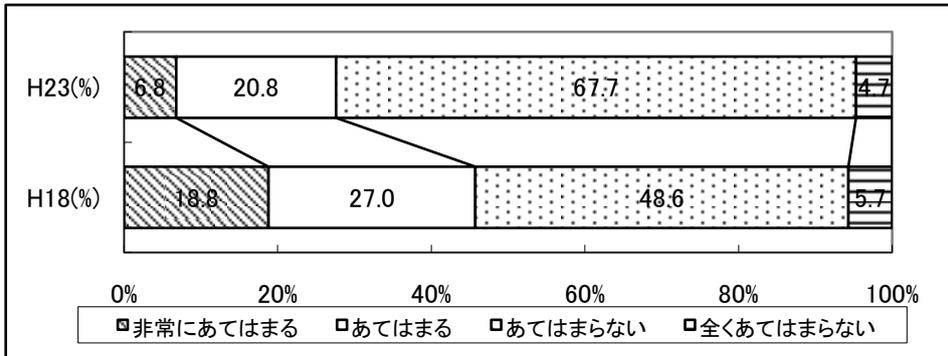


〈学部在学生〉

Q70 シラバスに改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	53	13
あてはまる	76	40
あてはまらない	137	130
全くあてはまらない	16	9
計	282	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	18.8	6.8
あてはまる	27.0	20.8
あてはまらない	48.6	67.7
全くあてはまらない	5.7	4.7
計	100.0	100.0



【自由記載】

シラバス通りではないので、計画が変わっているなら配って欲しい。2人

内容がわかりにくかったり、流れで授業を受けっぱなしになるので、授業内で活用した方が良いと思う。

分かりにくい

【評価と今後の対策】

シラバス改善の必要性については平成18年度と比較し27%とかなりの減少が見られた。しかし、シラバス通りに行われていないや年度ごとに変更があるとの理由で、毎年シラバスを配布してほしいとの要望があった。

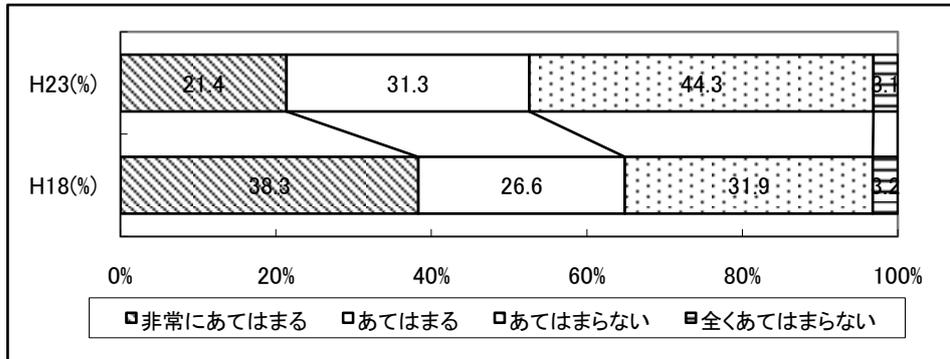
前回は同様の意見があったことから、変更がある場合はシラバスの配布を周知徹底する必要がある。

〈学部在学生〉

Q71 履修登録の方法に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	108	41
あてはまる	75	60
あてはまらない	90	85
全くあてはまらない	9	6
計	282	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	38.3	21.4
あてはまる	26.6	31.3
あてはまらない	31.9	44.3
全くあてはまらない	3.2	3.1
計	100.0	100.0



【自由記載】

パソコンからできるようにしてほしい。2人
登録の調整期間が短い。

登録ミスがあった場合、困る。2人

一年分まとめて履修登録せず、各期ごとにしてほしい。25人

選択科目だけ登録するようにする。

1年の時間割次第で2年次の時間割に影響が出るので、1年にのみ前期・後期バラバラの方がいい。
必修は既登録とし、選択だけ記入する。

【評価と今後の対策】

履修方法の改善の必要性については平成18年度と比較し53%に減少が見られたが、まだ半数を超える学生が改善の必要性を挙げていた。前後期に分けての登録、授業をうけて後の登録、パソコンからの登録、選択科目のみの登録の要望があがった。また、履修期間が短いとの不満もあがった。

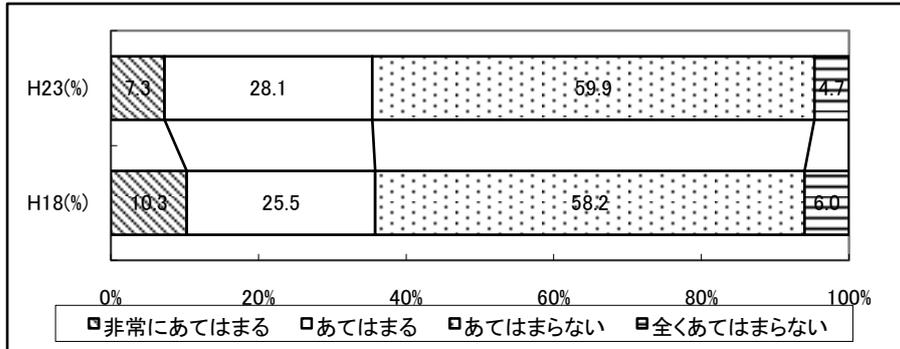
前回とほぼ同様の改善の必要性があがっており、さらなる登録方法の検討が必要である。

〈学部在學生〉

Q72 履修指導方法に改善は必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	29	14
あてはまる	72	54
あてはまらない	164	115
全くあてはまらない	17	9
計	282	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	10.3	7.3
あてはまる	25.5	28.1
あてはまらない	58.2	59.9
全くあてはまらない	6.0	4.7
計	100.0	100.0



【自由記載】

もっと丁寧な説明

統計演習はとった方が良いのかよくわからなかった。

入学時、単位取得方法がわかりにくい。

先輩の意見を聞く場がほしい3人

【評価と今後の対策】

履修指導方法の改善の必要性については平成18年度と比較しほとんど変化なく、35%の学生が改善の必要性を挙げていた。特に1年次は助言の必要性を感じており、教員や先輩からの助言を求めている。

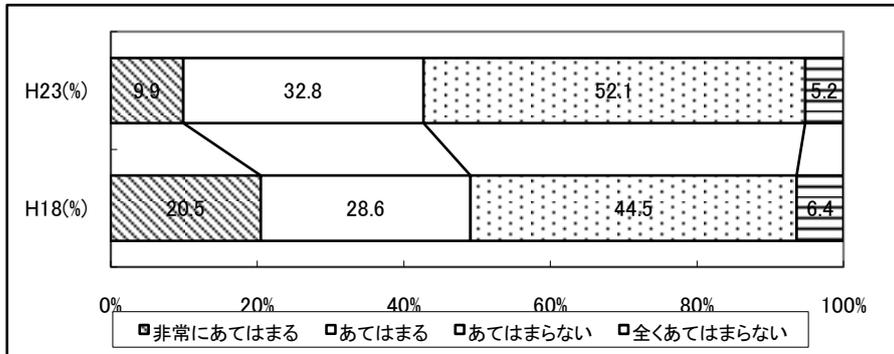
前回と比較し割合としては変化が見られないが、記述として進級要件や卒業要件に関する指導の必要性は見られなかった。学年毎の全体説明や個別指導の効果も考えられるが、割合に変化が見られないことから、学生の声を引き出す工夫が必要である。

〈学部在学生〉

Q73 時間割に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	58	19
あてはまる	81	63
あてはまらない	126	100
全くあてはまらない	18	10
計	283	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	20.5	9.9
あてはまる	28.6	32.8
あてはまらない	44.5	52.1
全くあてはまらない	6.4	5.2
計	100.0	100.0



【自由記載】

1日のウエイトの差が激しい。

1年後期は時間があり余っていたが、概論の授業は2年前期は多すぎ辛かった。

前期で落とした科目も、後期に履修できるようにしてほしい。

授業の間が空きすぎている時は、間の時間が自由に使えない。8人

駐車場ないのに朝早すぎる

4年次後期に授業つめこまれても困る2人

1、2年次に解剖を増やす。

【評価と今後の対策】

時間割の改善の必要性については平成18年度と比較し減少が見られたが、依然として43%の学生が必要性を挙げていた。講義間の長い空き時間、1日の講義時間の差の激しさ、前期と後期の授業時間の差、4年次後期の授業時間の多さ、駐車場がないが授業開始が早いなどが改善の必要性としてあがった。

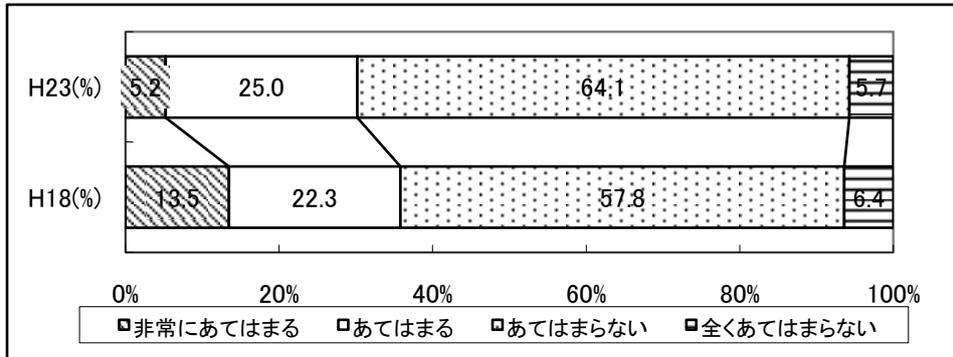
前回と同様の声が上がっており、改善策は効果が得られているとはいえない。カリキュラム改正をしたことから、その結果を追跡するとともに、学生の空き時間の活用方法についてもともに考えることが必要である。

〈学部在學生〉

Q 74 時間割の履行に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	38	10
あてはまる	63	48
あてはまらない	163	123
全くあてはまらない	18	11
計	282	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	13.5	5.2
あてはまる	22.3	25.0
あてはまらない	57.8	64.1
全くあてはまらない	6.4	5.7
計	100.0	100.0



【自由記載】

選択科目だけ登録するようにする。

【評価と今後の対策】

時間割の履行の改善の必要性については平成18年度と比較しやや減少が見られ30%であったが、非常に必要は半数以下に減少していた。理由については記述がほとんどないことから、学生の意見を吸い上げる工夫が必要である。

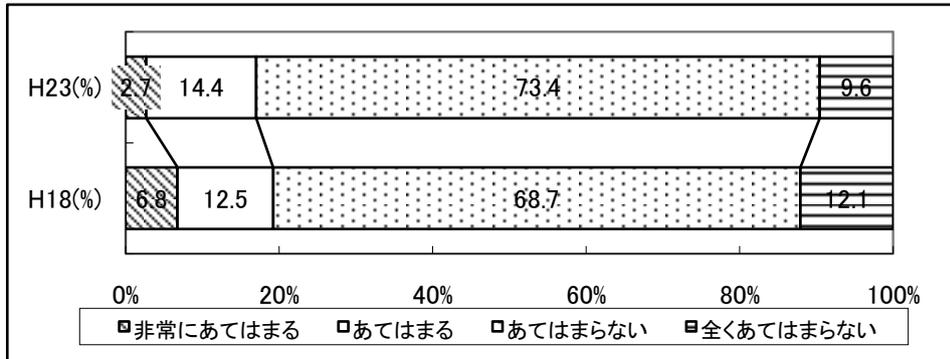
一方、教務委員会が年間の時間割表を作成し学生へ掲示していることから時間割履行の把握は容易になったと考える。

〈学部在學生〉

Q75 卒業単位数に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	19	5
あてはまる	35	27
あてはまらない	193	138
全くあてはまらない	34	18
計	281	188

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	6.8	2.7
あてはまる	12.5	14.4
あてはまらない	68.7	73.4
全くあてはまらない	12.1	9.6
計	100.0	100.0



【自由記載】

医療・看護系以外の科目を減らしてほしい。
124単位でいいと思う。

【評価と今後の対策】

卒業単位数の改善の必要性については平成18年度と比較しやや減少が見られ2割未満であった。理由として医療・看護系科目を減らしてほしいや124単位でよいとする声があった。

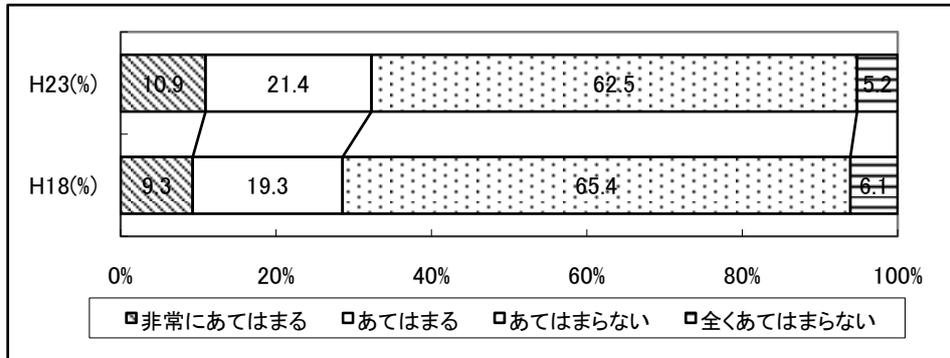
基本科目など幅広い教養を涵養する科目の必要性があまり認識されていないことが考えられ、学生への科目の目的理解とともに、講義内容が目的に沿っているか検討が必要である。

〈学部在学生〉

Q76 期末試験の方法に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	26	21
あてはまる	54	41
あてはまらない	183	120
全くあてはまらない	17	10
計	280	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	9.3	10.9
あてはまる	19.3	21.4
あてはまらない	65.4	62.5
全くあてはまらない	6.1	5.2
計	100.0	100.0



【自由記載】

中間・期末の2段にして欲しい。2人

1日にテストが3つ以上あるのは辛いので、スケジュールを平たく。

1週間などでやるのはきついで、2、3週必要。5人

まとめてテストをやるのは大変。授業が終わり次第テストしてほしい。1単位の科目や実習でテストまでの期間が長くなってしまう。2人

【評価と今後の対策】

期末試験方法の改善の必要性については平成18年度と比較し32%とやや増加していた。理由として試験期間が短い、1日の試験科目数が多い、長い科目は中間試験を設けてほしい、間に週末を設けてほしい、授業が終わり次第試験をしてほしいなどがあがった。

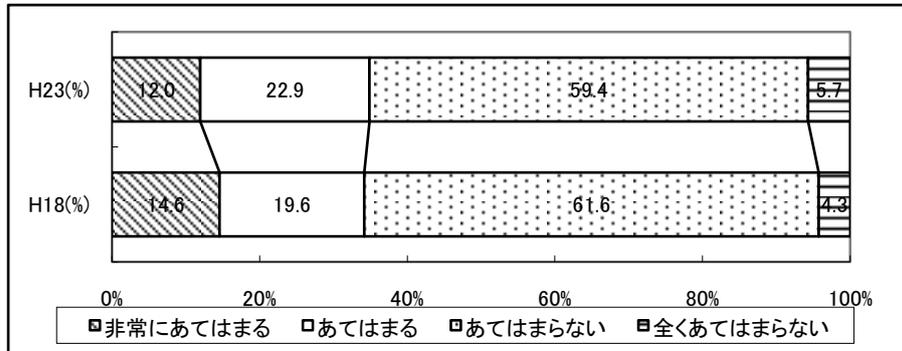
前回同様の意見がみられることから、改善策の実施状況を確認し、実施可能な改善策の検討が必要である。また、学生の日頃の学習習慣について学生とともに振り返り、学施可能な学習計画を検討する必要がある。

〈学部在學生〉

Q77 授業評価の方法に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	41	23
あてはまる	55	44
あてはまらない	173	114
全くあてはまらない	12	11
計	281	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	14.6	12.0
あてはまる	19.6	22.9
あてはまらない	61.6	59.4
全くあてはまらない	4.3	5.7
計	100.0	100.0



【自由記載】

無記名が徹底されていない。9人
パソコンで出来たら入力ミスも少なくなると思う。
同じ科目でも先生によって評価は異なる。
評価しても全く改善がされない 2人

【評価と今後の対策】

授業評価方法の改善の必要性については平成18年度と比較し35%とわずかだが増加していた。理由として記名式のため情報流出が心配や、書きたいことが書けないなどがあがっていた。また、改善が見られない、評価の活用が不明、先生によって評価が異なるがあった。

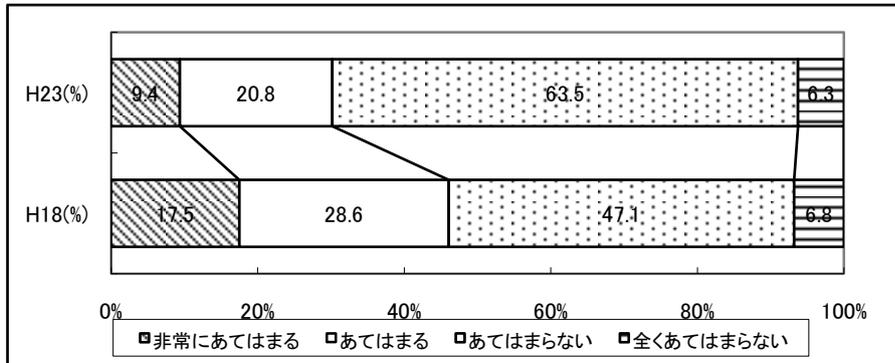
記名式の理由や、授業評価の活用について学生に周知されていないことから、その周知を教員、学生に徹底する必要がある。また、複数で授業を行っている場合には各教員に対する授業評価ができるよう方法の検討も必要と考える。

〈学部在学生〉

Q78 実習場所に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	49	18
あてはまる	80	40
あてはまらない	132	122
全くあてはまらない	19	12
計	280	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	17.5	9.4
あてはまる	28.6	20.8
あてはまらない	47.1	63.5
全くあてはまらない	6.8	6.3
計	100.0	100.0



【自由記載】

遠すぎる場所がある。5人

石垣市など大きな離島に、離島実習を行う意義はない。

学生の意見を反映すべき。

駐車場が欲しい。3人

本島内でも交通費などで経済的に厳しいため、離島実習になったらと思うと経済面が怖い。3人

【評価と今後の対策】

実習場所の改善の必要性については平成18年度と比較し30%とかなり減少していた。しかし、必要性への意見は多く、実習施設への遠距離からくる経済的負担や、交通手段、駐車場の整備等を挙げている。また、離島実習にかかる経済的負担と、石垣島のような大きな離島での実習の意義についての疑問があった。

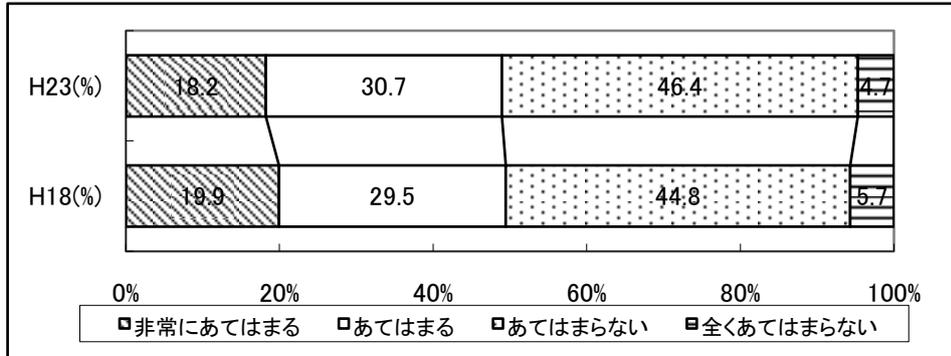
前回と比較し改善の必要性について割合は減少しているものの、前回と同様、実習施設の遠距離からくる負担感がある。質を担保するための実習施設の確保と離島実習の必要性を説明するとともに、本島と変わらないように感じる大きな離島での実習についてもその必要性の説明とさらなる学生への支援体制を検討することが必要と考える。

〈学部在学生〉

Q79 実習配置方法に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	56	35
あてはまる	83	59
あてはまらない	126	89
全くあてはまらない	16	9
計	281	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	19.9	18.2
あてはまる	29.5	30.7
あてはまらない	44.8	46.4
全くあてはまらない	5.7	4.7
計	100.0	100.0



【自由記載】

1科目ごとでは適切かもしれないが、いくつかの科目でレポートなどが重なったりするため不適切に感じる。

経済や車の有無なども考慮してほしい。4人

グループも実習配置も何を基準にしているのか全然わからない

実習場所が遠いと移動が費用・睡眠時間などの面で多いな負担となっている。6人

希望施設に配置してほしい。6人

どの実習においても、同じ施設という配置がある。

二度も離島に行ったのに北部にも行かされた。一度も行っていない人もいるのに不公平 2人

離島実習のための積立金は必要だと思う。

学生間での交代を可能にしてほしい。2人

【評価と今後の対策】

実習配置方法の改善の必要性については平成18年度とほとんど変わらず50%と高い割合を示していた。その理由として何回か離島に行く学生と全く行かない学生がいることの不公平感、どの実習でも同じ施設への実習配置、希望が全く通らない、学生間の交代を可能にしてほしい、個人の家庭の事情や経済的状況の配慮が全くない、グループや実習配置の基準が分らない、遠距離だと移動・経済・睡眠の面で負担が大きい、バスで行ける施設にしてほしいなどがあがった。

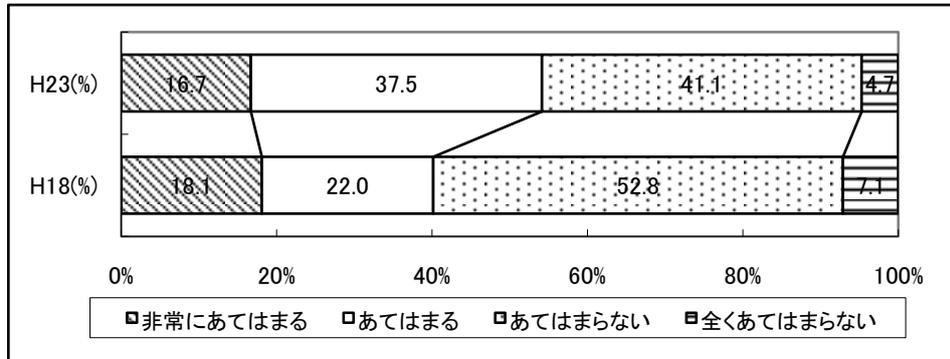
前回から改善が見られないため、学生と大学は話し合いの場を持ち、相互理解につとめ折り合いのつく方法を検討する必要がある。

〈学部在学学生〉

Q80 国家試験対策に改善が必要であった

	H18(人)	H23(人)
非常にあてはまる	46	32
あてはまる	56	72
あてはまらない	134	79
全くあてはまらない	18	9
計	254	192

	H18(%)	H23(%)
非常にあてはまる	18.1	16.7
あてはまる	22.0	37.5
あてはまらない	52.8	41.1
全くあてはまらない	7.1	4.7
計	100.0	100.0



【自由記載】

介入し過ぎ。自主性に任せてほしい。2人
生徒が行うことが多すぎる(委員)

学生のサポートになっていない。付け焼き刃的な対策は逆効果。

卒論に忙しくて取り掛かるのが遅くなる。かといって、卒論をなくした方がいいとは思わない。

2年次から国試を意識した授業をしてほしい。8人

卒論を選択制にしてほしい。2人

1、2年の間に生態学などは行ってほしいが、その後の学習にも役立つ。2人

どのような対策をしているか分からない。

カリキュラムに組み込んでほしい。

【評価と今後の対策】

国家試験対策の改善の必要性については平成18年度比較し54%とかなり増加した。その理由として低学年から取り組んだ方が良く、1、2年に生態学は行っておく方が良く、2年次または3年次から国試を意識した授業や模擬試験をやってほしい、カリキュラムに組み込んでほしい、学生(委員)のやるが多すぎる、介入しすぎなので自主性に任せてほしい、卒論を選択制にしてほしいなどがあがった。

国試対策については低学年から取り組みたいとの要望があることから、教員も国試の傾向に関心を持ち、国試の求めているレベルを担当科目の到達目標と関連させて教育に反映していく必要がある。学生に対しては、国試のみに主眼をおいた学習ではなく、幅広く学問を探究し、判断力、応用力を養うための学習態度を身に付けていくような学習指導が必要と思われる。また、学生への学習支援として学生の主体性を尊重しつつ、学生に対し組織的に適切な学習環境や新たな情報を提供する支援が必要と考える。